

氏 名	元 廣 惇
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第599号
学位授与年月日	令和4年3月18日
審 査 委 員	主査 教授 長井 篤
	副査 教授 佐野 千晶
	副査 准教授 田村 太郎

論文審査の結果の要旨

認知症は世界的に重要な公衆衛生上の課題である。これまで認知機能低下に影響を及ぼす個別的要因（身体的要因や生活習慣など）が様々検討されているが、居住環境要因が与える影響については未だ十分な検討が進んでおらず、とりわけ中山間地域在住高齢者を対象とした研究はほとんどない。そこで申請者は、中山間地域在住高齢者の認知機能低下に対して居住環境要因がどのように影響しているかを調査するための縦断的研究を実施した。島根県雲南市に居住し、2014年から2018年にかけて実施された2回の調査に参加した60歳以上の高齢者485人のデータを分析した。認知機能はiPadのアプリケーションCADI2を用いて評価した。標高、傾斜、居住密度、公民館との近接度は地理情報システムを用いて求めた。居住環境要因の四分位における認知機能低下のオッズ比（OR）および95%信頼区間（CI）を一般化推定方程式を適用して求めた。合計56名（11.6%）の参加者が、追跡調査時に認知機能の低下を示した。標高〔第4四分位（標高214.2 m以上）vs 第1四分位（標高59.8 m未満）の調整済みOR 2.58, 95% CI (1.39, 4.77)〕と傾斜〔第4四分位（傾斜13.7度以上）vs 第1四分位（傾斜7.0度未満）の調整済みOR 1.93, 95% CI (1.03, 3.63)〕は、認知機能の低下と強く関連していた。また、居住密度と公民館との近接度についても、認知機能低下に対して有意な影響あるいは影響を与える傾向がみられた。これらの結果は、中山間地域における居住環境、特に丘陵環境が認知機能に影響を与えることを示唆している。本研究は、今後、高齢者の認知機能低下予防のための介入に応用可能な優れた知見であり、学位授与に値する成果である。